

■（132）終業式に「宿題」の提出？ 新聞の夏の危機対策

夏休みシーズンを迎えた。子どもにとっては楽しい長期休暇だ。一方、親や教師にとっては、目の届かない時間が増えるため、子どもらに何か起こらないか心配になる。そんな折、広島市で16歳少女の遺体が見つかり、少年少女ら7人が逮捕される事件が発覚した。

少年事件は、どうしても匿名やぼかした表現が多くなる。容疑者の少年少女が特定されるような報道をしてはいけないとする少年法に従っているからだ。将来の更正を尊重し、報道も「親」の立場に立とうという精神だが、実際に子を持つ親や先生にすれば、どんな子が、どんなきっかけで、転落したのか詳細を知りたいというのが本音だろう。今回は特に、被害者と逮捕者らは通信アプリを使い、日記のように感情をつづっている。流行の通信手段を子供たちはどう使っているのか、などと知りたい背景事情は少なくない。現場の記者は、今回もぎりぎりの表現で何とか必要な情報を伝えようとしている。

夏の危機は新聞にもある。記者が休むと原稿が不足するので、休暇中でも使える原稿を出すように求められる。終業式が締め切りの「夏休みの宿題」？ 提出忘れは許されない。
(山)